

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

カーボンニュートラルは「逆産業革命」

小林 喜光(三菱ケミカルホールディングス会長、6月より東京電力会長)

1. 「逆産業革命」とも言えるカーボンニュートラルの^{ほんりゅう}奔流が社会に押し寄せている、2030年に向けた温暖化ガスの排出目標について、日本は13年度比46%減と高い目標を掲げた。地球温暖化は、パンデミックと同じかそれ以上にグローバルアジェンダとして解決すべき問題だ。利便性や経済を優先して人間が減っては元も子もない。こうした切迫感で世界の足並みがそろったこと自体は大いに結構だ。
2. しかし目標達成までの道のりは平たんではない。石炭や石油など化石燃料を使った安価な経済インフラの^{きょうじゆ}享受で成り立ってきた豊かな暮らしの変化を覚悟する必要があるようだ。それほど大きなマインドリセットが国民一人ひとりにも求められるのではないか。カーボンニュートラルは科学や物理の法則、経済合理性から従来は当然だった「常識」をひっくり返す作業だ。
3. 車や飛行機で人々は自由に移動し、機械を使う工場が消費社会を支えた。いずれも化石燃料を大量消費する。だが地球環境が破壊され二酸化炭素(CO₂)排出削減は待たなし。産業革命から200年近く共にした、化石資源をよりどころとする価値観、技術のベクトルを逆転させなければならない。

(参考:「日経ビジネス」2021年5月31日号)

ワンポイント経営アドバイス

技術は完全にボーダーレスで国境も人種もない

松尾 豊(東京大学大学院教授)

1. DXのXはトランスフォーメーション。つまり改善ではなく、すっきりと形が変わる「変化」です。しかし、いざ改善ではなく変化をやろうとすると、嫌われてしまう。変化を嫌う背景には、構造的な問題があります。おおよそどこも年功序列で、若い人が活躍していく環境にあります。一方、AIやITなど新しい技術の活用は若い人の活躍が不可欠で、組織内の環境と合わない。とくに大企業は売り上げの規模が大きく、それを捨ててまで組織を変えて新しいものに取り組むところまでいかないのです。
2. 技術は完全にボーダーレスで、国境も人種もない状況。ところが日本企業は、国内の閉じた空間、あるいは何かしらの規制で守られている空間に心地よさを感じていて、世界の急速なボーダーレス化に対応できていない。そこに日本企業の競争力低下の原因がある。

(参考:「週刊東洋経済」:2021年6月5日号)

人事・労務について

最低賃金目標の見直し必要

神田慶司(大和総研シニアエコノミスト)

1. 最低賃金の改定に向けた議論が本格化している。2021年の骨太の方針の原案では、「感染症の影響で賃金格差が広がる中で、格差是正には最低賃金の引き上げが不可欠」「より早期に全国加重平均1000円とすることを目指し、本年の引き上げに取り組む」とされた。最低賃金の引き上げ率は19年度まで4年連続で3%を超えたが、20年度はコロナ禍で0.1%にとどまった。
2. 中長期的には、1000円という最低賃金の目標を見直す必要があるだろう。この点、英国では24年の最低賃金の目標を、全雇用者の賃金中央値の3分の2と定めている。OECD(経済協力開発機構)が定義する低賃金労働者の賃金水準と同じだ。19年の日本に当てはめると947円に相当する。英国で若年層等の最低賃金が低く抑えられており、日本の目標は数字が示す以上に高い。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2021年6月26日号)

古典に学ぶ

正真正銘の商売

(解説)しかしこれらの事以外において、現在有るものを無いといい、無いものを有るというごとき、純然たる嘘をつくのは断じてよろしくない。ゆえに正真正銘の商売には、機密というようなことは、まず無いものと見てよろしかろう。

(参考:渋沢栄一「論語と算盤」:国書刊行会)